

みやけの風

第 126 号

平成 15 年(2003年) 5月 31日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmppo.org

「まったく、巨人の調子の悪いことなんだよ」「だから。勝つんだか負けんだかわかんねえ試合ばっかだな」「巨人はよ、やっぱスカッと勝ってくんねえとよ、野球がつまんねえじよ」「おうよ。見てらんなくてテレビを途中で消してばっかだよ」「われもか。まあ見てるって、夏を越す頃には調子を上げっから」「いえー、夏を越したらシーズンは終わりだじよ」「まあよ」「そりゃそうと、台風が来てんな」「坪田衆の滞在帰島がうまく行くといいけんどな」「どうだかなあ」

みんなの声

初夏の風に思う

街路樹の緑が目によさしく、初夏の風が吹きます。島ではガクアジサイの花が咲いているのでしょうか。

店頭には夏野菜が出まわって、食の楽しみがまします。ただね、あの島で味わったトマト、キウリ、ナスの味はありません。このさびしさが島恋しさに結びつきます。

昨年の中頃は、母、大茂フミの食欲にあわせて調理していました。懸命にはつらつと闘病生活していましたが、4月10日に永眠しました。もう一度、島から海を眺める日があることを願っていましたのに残念でなりません。

三宅を恋しく、切ない思いで都会暮らしをしてられるおば達。

どうぞご自愛なさって、三宅であえる日をひたすら願いつづけています。

(江東区 阿古 佐々木 美代子)

あしたばがつなく心の和

今回も本当にたくさんのあしたばが、神津島から届きました。早速、大なべでゆでていると、ご近所のブースのボランティアさんが替わるがわる訪ねてきて、「これ何ですか?」「どうやって食べるの?」とい

ろいろ聞いてきます。なかには「ほうれん草ですか?」と聞く人も。その度に島のお母さん方があしたばのウンチクを並べたてます。彼らも熱心に聞いてくれます。そして少しですが、分けて差し上げました。

このあしたばと共に、島の話が食卓にのぼれば、三宅島や伊豆七島のことをより身近に感じてくれることでしょう。

神津島の皆さんが苦労して集めていただいたことに大感謝すると共に、あしたばが一役も二役も買って来て、たのもしく感じられた日でした。(港区港南 浅沼 京子)

三宅島島民ふれあい集会に参加して

JHP・学校を作る会のボランティアさんより寄稿いただきました。

三宅島の特産であるくさやを焼いたり、火山灰でつくられたガラスを見たり、三宅島のお祭りの様子を教えて頂いたり、島の文化を少し知ることができました。

私は、昭和58年に生まれました。その当時三宅島では噴火があり、阿古地区の数百世帯が溶岩で埋まってしまったと聞きました。「自然の力には逆らえない」という

三宅島災害・東京ボランティア支援センターより

三宅島災害・東京ボランティア支援センターでは、現在、一切の街頭募金および署名活動は行っておりません。なお、駅頭などで活動を行っている団体とは、一切関係はありません。

言葉が忘れられません。もう4回も噴火を経験されているというお話を伺い、自然の脅威を感じました。

自然と共に生きていくこと、そして長年住み慣れた土地を離れること、私が今回感じたことは、三宅島のほんの一部ではないと思いますが、同じ日本に住む者として支え合う心を改めて考えた一日でした。この気持ちを大切にしていきたいです。

(杉田 祥恵)

とても恥ずかしい事に、同じ日本の同じ東京都に住んでいながら、私はこの日まで三宅島の現状や人々の思いなどをほとんど知りませんでした。

「くさや」焼きを手伝わせていただいたり、明日葉など食べたことのない物も食べさせていただきました。島民の方々ともいろいろなお話をし、三宅島に対する思いなどをたくさん聞くことができ、一刻も早くみなさんが安全に帰島できる日が来てほしい、また協力していけることがあったら、ぜひ手伝っていききたいと心から思いました。

この「ふれあい集会」には学ぶことが本当にたくさんあり、そしてすごく楽しい時

間を過ごすことができました。「ボランティア」とは、人に何かをしてあげることではなく、互いにいろんなことを得ることができる「相互作用」なんだな、と実感することができた一日でした。

(武蔵工業大学2年 小島 由美)

5月18日、暑くもなく寒くもなくちょうどいい天気。テントの飾りつけ、くさやの袋詰め、明日葉の胡麻和えを盛り配る。手伝いが一通り終わったので会場を散策。集会に来ていた島民の人々は再会に喜び、笑顔で話していた。まるで会場全体が知り合い。そんな幸せを少し分けてもらいたくて、話しに入れてもらおうと話しかけると快く混ぜてくれる。優しく、朗らかで元気な人々。みんな三宅が大好きで、人・自然・産物の自慢話を聞かせてくれた。みんなが悲しい顔をするのは、そんな大好きな島に今すぐに帰れないから。みんなが明るい顔をするのは、そんな大好きな島に帰る日を、未来を見ているから。自分たちの島に誇りを持った人たちとのすばらしい出会いがあった一日だった。

(大嶋 香里)

東京愛らんどフェア

東京都庁都民ひろばにて、三宅島島民ふれあい集会にもメッセージを寄せてくださった、五木ひろしさんの歌による三宅島応援歌の発表コンサートが開催されます。座席数に制限があるため、入場券のお申込については、すでに定員を超えているとのことです(5月29日現在)が、立ち見も出来ます。会場では、島しょ物産の展示即売も、終日、行われますので、お誘いあわせの上、お出かけになってみてはいかがでしょうか？

日時：6月10日(火) 11:00~18:30

場所：東京都庁都民ひろば

観光PR・物産展 11:00~18:30

- ・ 伊豆諸島・小笠原諸島観光PR
- ・ 島の特産品の展示・即売
- ・ 三宅島げんき農場・三宅村ゆめ農園の紹介(花の無料配布あり)
- ・ 小笠原のエコツーリズムのPR

三宅島復興応援歌発表・チャリティミニコンサート 17:00~17:50

- ・ 五木ひろしさんが「望郷の歌」、「誓いのなぎさ~砂に書いたメッセージ~」ほか数曲を熱唱します。
- ・ ゲスト 石原慎太郎東京都知事、長谷川鴻三宅村長、阿久 悠
- ・ 晴天の時は都庁都民ひろば、雨天の時は都庁展望室にて行われます。雨天時は収容人数に限りがありますので、あらかじめご了承ください。

耳寄り
情報